

社会福祉士養成教育における相談援助実習指導支援システムの提案

Proposal of a system to support guidance of social work practice in social worker training

坂本 毅啓^{*1}, 佐藤 貴之^{*1}, 中原 大介^{*2}
 Takeharu SAKAMOTO^{*1}, Takayuki SATO^{*1}, Daisuke NAKAHARA^{*2}
^{*1} 北九州市立大学
^{*1} University of Kitakyushu
^{*2} 福山平成大学
^{*2} Fukuyama Heisei University
 Email: s-takeharu@kitakyu-u.ac.jp

あらまし：本稿では、社会福祉士養成教育における相談援助実習と相談援助実習指導を実務的、教育的観点からの課題を提示し、その課題解決に向けた ICT を活用した支援システムに求められる機能と、それによって期待できる効果について検討を行い、どのような支援システムを設計すれば良いかを提案する。
 キーワード：社会福祉士、相談援助実習、相談援助実習指導、支援システム

1. はじめに

筆者らは、これまでに社会福祉士養成教育における模擬面接教材⁽¹⁾で、ICT 活用とその効果について研究を進めてきた。本研究では、これまで取り組んできた ICT 活用の範囲を拡張し、より福祉現場に近い実習指導上の様々な課題の解決を図ることを目指したテーマに取り組む。その端緒として、まずは相談援助実習指導上における課題を洗い出し、システムの設計方針、システム開発で得られる効果を示した上で、社会福祉現場での実習（指定科目名：「相談援助実習」）及び実習指導（指定科目名：「相談援助実習指導」）（以下、「実習・実習指導」と記す）を支援するシステムを提案する。

2. 社会福祉士養成教育における相談援助実習及び相談援助実習指導の特質

社会福祉現場における相談援助職であり、ジェネラリスト的存在である社会福祉士を養成する教育カリキュラムでは、実習・実習指導と演習を中心的な位置づけとしている。その実際は、詳細にわたって厚生労働省が規定をしており、法制度に基づいた教育内容が求められている。実習・実習指導を担当する教員研修で使用され、教育上の標準的な教科書である一般社団法人日本社会福祉士養成校協会(2015)によれば、実習・実習指導の科目の特質として、①実習先施設・機関等への依頼が必要、②実習には多くの場合、養成校内の複数教職員がかかわる、③実習生は二重の指導体制のもとに置かれる、の以上 3 点を挙げている⁽²⁾。

3. 実習・実習指導における実務的及び教育的課題

これら 3 点の特質を踏まえ、実際の実習・実習指導の展開における学生、実習先、養成校の関係とは緊密な連携の下に教育が展開されることが特徴であ

る。具体的には図 1 のような関係性の中で情報が受け渡される。



図 1 実習生、実習先、養成校の関係

このような関係の基に行われる実習・実習指導には、基本的に手作業により連絡・相談、書類作成などが行われている。しかし限られた人的資源の下、多くの情報を実務担当者(大抵は実習助手、助教等)が主観的・経験的に操作しながら業務を遂行しているのが現状である。

このような実習・実習指導における実務的及び教育的課題としては表 1 に示したように、①実習実務に関する情報の管理、②施設情報・学生情報・教員情報を踏まえた実習配属のマッチング、③実習依頼業務、④限られた人的資源での業務遂行、⑤実習巡回業務とそれに付随する事務、⑥記録・課題指導、⑦相談・トラブル対応、と言った 7 つを挙げることができる。

例えば、①と②の実習実務で扱われる情報は非常に多岐にわたり、その管理は紙やエクセルで管理されていることが多い。また③の実習依頼業務ではワープロソフトに手入力で作成し、結果的に最新の情報が反映されていなかったり、記載事項に誤記があったりというミスが発生することがある。ま

課題・ニーズ	システム機能	期待できる効果
実習実務に関する情報の管理 <ul style="list-style-type: none"> 大量の情報を毎年手作業で確認。 紙ベースであることが多い。 エクセル、ワードを活用して管理していることが多く、検索している情報の有効活用ができていない。 監査、実地指導に必要な情報の管理が不徹底。 	データベースの構築 <ul style="list-style-type: none"> 登録施設、実習指導指導可能な範囲内にある施設情報の情報管理。 実習指導者に関する情報の管理。 学生に関する情報の管理。 これまでに行われた実習に関する情報の管理。 指導を担当する教員に関する専門性、巡回可能な範囲等についての情報管理。 	効率的な連携の構築。 効果的な教育指導。 情報の蓄積と管理。
施設情報、学生情報、教員情報を基とした実習配属のマッチング <ul style="list-style-type: none"> 実習実務担当者の力量や物性で、マッチングにミスが起きることもある。 指導する教員の専門性と、学生のニーズがマッチングしないこともある。 これまでの実習実務状況の管理が、経験的であることが多い。 	マッチングサポート機能 <ul style="list-style-type: none"> データベースに基づいて自動的にマッチングの第1次案を作成する。 第1次案を精査して、実習指導教員が調整、修正等を行い、第2次案を作成する必要がある。 マッチング結果について、登録施設等においてもすぐに連絡が行くシステム（メール、Fax、SMS等） 	効率的なマッチング作業
実習依頼業務 <ul style="list-style-type: none"> 大量の書類の手作業による作成。 依頼の結果、事務作成に掛けるミスの発生。 	関係書類の自動作成 <ul style="list-style-type: none"> 上記の情報を統合して、自動的に実習依頼関係書類を作成する。（データベースとのリンク） 	効率的な実務の遂行 共通のデータベースを使用して書類作成上のミスの低減
限られた人的資源での業務遂行 <ul style="list-style-type: none"> 実習実務担当者不足の大学 少人数スタッフで業務を進める専門学校 遠隔地校も多い。 	効率的な業務システム <ul style="list-style-type: none"> オンライン上で、関係者と業務を進めることができる。 	小規模な専門学校や遠隔地校でも取れば、限られた人的資源でも効率的に業務を進めることが可能。 多人数の教員体制あり、限られた実習実務担当者でも効率的な運営が可能となる。
実習巡回業務（事務手続き、巡回記録作成、提出） <ul style="list-style-type: none"> 出張手続き等の事務手続き 巡回記録の作成、保管（監査対象） 	オンライン上での事務手続き <ul style="list-style-type: none"> オンライン上で作成できる巡回記録（パソコン、スマートフォンのいずれでも可能に）。 	事務手続きの簡素化・合理化 記録等の保管を容易に行い、監査等の確実な対応力を持つ。
記録・情報管理 <ul style="list-style-type: none"> 手書きの記録、支援計器等の書類作成 随時の記録ができない。 実習指導者からすると、記録指導が大変。 	オンラインでの記録・情報の提出及び指導 <ul style="list-style-type: none"> スマートフォンを活用して実習記録（日報）、書類等を教員へ提出することができる。 作成した記録、書類を写真でアップロードして、教員へ提出することができる。 記録の指導を実習指導者と教員が共有し、連携した記録指導を行う。 	記録・書類作成における指導・支援体制の確立 実習指導者と教員による指導上の連携強化 巡回記録は手書きで作成することが、実習教育における標準。
判断・トラブル対応 <ul style="list-style-type: none"> 実習上における学生の悩み、相談等へ対応することができず、学生が実習を放棄することがある。 実習上のトラブルに迅速に対応する必要がある。その内容について、教員と教員、教員と施設とで連携する必要がある。 	オンラインを活用した判断・トラブル対応 <ul style="list-style-type: none"> 学生が気軽に相談を持ちかけることができる。 トラブル等の緊急時の連絡システムを構築。 オンラインを活用して、判断・トラブル対応について、実習指導者と教員が共有し、連携して指導・支援にあたる。 	迅速な判断・トラブル対応 実習施設との連携の強化 相談・トラブル対応の記録の蓄積と以後の活用

表 1 実習・実習指導における課題・ニーズ、システム機能、期待できる効果

た⑥の実習日誌は毎日作成・提出するが、実習指導者と教員がバラバラに指導していることがある。⑦のトラブルは実習につきものであるが、巡回を担当する教員が抱え込んで独りで対応するだけで、その結果についても共有・蓄積されることが少ない。

これまでに、このような課題を ICT で解決するに至らなかった背景には、①実習実務を担当する教員がシステムやパソコン操作に詳しいとは限らない、②周囲にシステムエンジニアが存在する環境にない（特に専門学校）、といったことがある。

4. 実習指導支援システムの提案

先に述べた実習・実習指導における実務的、教育的課題は、ICT を活用することで多くが解決するのではないかと考えられる。独自のサーバーを中心に、学生、実習指導者、そして養成校がネットワークを介して情報を伝達しあい、その結果、連携して実習をスムーズに実施できるシステムを用意することである。その設計方針は、実務的課題と教育的課題は不可分な関係で、パソコン操作に詳しくないような教員でも、実務的、教育的課題を解決できるような機能性を持たせることであり、そのシステムに求められる機能は表 1 に示した通りである。

これにより、パソコン操作に詳しくない教員であっても、効率的に実務を進めていくことが可能となり、教員としての本来業務である学生と向き合う時間をより確保することができる。さらに、巡回指導記録等もオンライン上で提出することが可能となれ

ば、事務手続きの効率化だけでなく、確実な記録保全が可能となる。このようなシステムは、養成校として必ず受けることになる監督官庁からの監査指導や、監督官庁へ毎年提出する指定項目の報告、さらには制度改正に伴う実務変更についても、確実に対応できることが期待できる。

5. おわりに

相談援助実習における実習記録（日誌）や支援計画作成などの課題は、未だ手書きが中心である。特に福祉現場における ICT に対する距離感から、実習指導に ICT を活用することに対して、施設によってはかなりの抵抗があると思われる。そのため、導入できる可能性の高い機能からシステムを構築し、試行段階へと進めていきたいと考えている。

謝辞

本研究は JSPS 科研費 26330403 の助成を受けたものである。

参考文献

- (1) 坂本毅啓, 佐藤貴之, 中原大介: “社会福祉士養成課程における模擬面接教材のルーブリック作成”, 教育システム情報学会研究報告, 第 31 号, 第 6 号, pp.149-154 (2017)
- (2) 一般社団法人日本社会福祉士養成校協会編: “相談援助実習指導・現場実習 教員テキスト 第 2 版”, 中央法規, 東京 (2015)